

画廊きらら

画廊きららでは、市が所蔵している美術品を展示しています。

現在、展示中の作品をご紹介します。

<p>こがらし 「木枯」</p> <p>かやまたぞう 加山又造</p> <p>作者は、京都出身の日本画家・版画家。山本丘人<small>やまときゅうじん</small>に師事し、日本画の伝統的な様式美を現代的な感覚で表現しました。平成15年文化勲章受章。</p>	<p>ぼさつ 「菩薩」</p> <p>おぐらゆき 小倉遊亀</p> <p>作者は、滋賀県出身の日本画家。昭和13年に旧青海町出身の小倉鐵樹<small>おぐらてつじゅ</small>と結婚し、のちに同町の名誉町民となりました。本作品は72歳のときの作品で、やわらかな線と淡い色彩によって、柔らかな菩薩が描かれています。昭和55年文化勲章受章。</p>	<p>しょう 「翔」</p> <p>おおつきせいごろう 大月清五郎</p> <p>作者は、糸魚川市出身の工芸家。本作品は、2匹の鴉<small>う</small>が仲むつまじく飛翔する様子を表し、背面には木目の美しい無垢材が使われています。</p>
<p>さきゅう 「砂丘」</p> <p>きたむらまさのぶ 北村正信</p> <p>作者は、市振出身の彫刻家。幼名は虎井友吉。明治42年に北村四海<small>きたむらしかい</small>の養子となり北村正信を襲名し、四海とともに大理石彫刻の第一人者と称されました。旧青海町名誉町民。</p>	<p>「親不知子不知絵図」</p> <p>作者不詳</p> <p>天保9（1838）年に現地案内人が保持していたという親不知の絵図です。今でいえば、親不知のガイド地図ということでしょうか。</p>	<p>げんみょう 「玄妙」</p> <p>むしやのこうじさねあつ 武者小路実篤</p> <p>作者は、日本の小説家・詩人・劇作家・画家。代表作は「お目出たき人」「友情」「真理先生」など。昭和26年度文化勲章受賞。</p>
<p>こたきがわきょうこく 「小瀧川峡谷」</p> <p>きたやまそふう 北山素風</p> <p>作者は、市内書家。この作品の内容は、国石となったヒスイのふるさと小瀧川峡谷を詠んだものです。ここ「画廊きらら」の入口の看板の文字も同氏によるものです。</p>	<p>「朝のポーズ」</p> <p>ふじまきくにひこ 藤巻邦彦</p> <p>作者は、彫刻家として、糸魚川地域、青海地域で木彫教室を主宰し、数多くの作品を手がけました。この作品は、片膝立ちの女性が眩しそうに顔を上げており、清々しい朝日がそこに射し込んでいるようです。</p>	<p>「風景」</p> <p>おおぐちしょうじ 大口昭治</p> <p>作者は、妙高市の画家。旧糸魚川市のふるさとかるたの絵札のカットを担当しました。この作品は、ある冬の港でしょうか。船が折り重なりじっと春を待つ姿に、雪国の辛抱強さを感じます。</p>

<p>「樹液」</p> <p>藤巻邦彦</p> <p>大きな木彫作品です。どろりと垂れる樹液が植物の生命力を感じさせます。</p>	<p>「水族館」</p> <p>やまもとみちこ 山本通子</p> <p>作者は、糸魚川市出身の日本画家。この作品は、全体的に淡い色合いで、珊瑚と魚が水族館の幻想的な雰囲気表現しています。よく見るとタツノオトシゴも。</p>	<p>「鶴の舞」</p> <p>おおやまちゅうさく 大山忠作</p> <p>作者は、福島県出身の日本画家。日展を中心に人物、花鳥、風景など幅広い作品を発表しました。平成18年文化勲章受章。</p>
<p>「裸の青年像」</p> <p>藤巻邦彦</p> <p>若々しい肉体と、首を突出し好奇心あふれるような表情が、青年らしさを表しています。</p>	<p>「手を挙げる女」</p> <p>ル・コルビュジェ</p> <p>作者は、スイス出身の建築家。主にフランスを舞台に活躍し、フランク・ロイド・ライト、ミース・ファン・デル・ローエとともに、「近代建築の三大巨匠」と呼ばれています。詩や絵画を好み、リトグラフやエッチングなど版画も多数制作しました。</p>	<p>「春の午後」</p> <p>いとうただお 伊藤忠雄</p> <p>作者は、市内洋画家。タイトルのとおり、淡い色合いで春のような柔らかさの幻想的な作品です。瓶やティーポットのように見えるものがあり、春の午後の食卓でしょうか？いろいろ想像してみてください。</p>
<p>「勾玉を持つ糸魚川の女」</p> <p>いしだかすま 石田一馬</p> <p>作者は、市内の彫刻家。糸魚川のシンボルでもあるヒスイの勾玉を掲げ持つ若い女性です。凜とした女性の表情が印象的です。</p>	<p>「童心一稚児の舞」</p> <p>まついきよみ 松井紀代美</p> <p>作者は、市内画家。全体的にカラフルな色合いの作品で、長い冬が明けて春が来た喜びと祭りの高揚感を与えてくれます。</p>	<p>「樹液ー7」</p> <p>藤巻邦彦</p> <p>作品自体は、10番の「樹液」よりも小さめですが、より大粒の滴りに力強さを感じます。</p>

場内の作品には手をふれないでください。

画廊きらら

青海総合文化会館 きららカルチャースペース2階

開館時間 9:00~17:00 ※月曜休館

入場無料 (入場の際は、受付にお声掛けください。)